

デオキシニバレノール及びニバレノールに係る食品健康影響評価に関する審議結果(案)についての御意見・情報の募集結果について(案)

1. 実施期間 平成22年9月17日～平成22年10月16日
2. 提出方法 インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況 1通

4. 御意見・情報の概要及びそれに対するかび毒・自然毒等専門調査会の回答

	御意見・情報の概要	専門調査会の回答
1	<p>食品健康影響評価にて、ニバレノールはプロモーション作用があることを示唆するような書きぶりがされております。</p> <p>この点、気になりましたので、参照の論文を読みましたところ、ニバレノールにプロモーション活性があると具体的な記載は見あらず、アフラトキシンの作用の増強と記載されておりました。</p> <p>評価書にも書かれていますように、同じ文献でDENとニバレノールの実験でプロモーション作用が否定されている結果がありますが、「明らかに発がん性のあるアフラトキシンの前投与」でのそのアフラトキシンの発がん誘導の増強という結果をもって、「ニバレノールはプロモーション活性をもつ」というように読める記載をされているのは、プロモーション作用の解釈を広くされているのかとは思いますが、少し違和感を覚えます。</p>	<p>御意見について、専門調査会での審議の結果、誤解が無いように当該箇所（P81 27行目～P82 1行目）については、下記のとおり修正をすることとしました。また、本修正にあわせて、P55 32行目も修正致します。</p> <p>～（前略）～ただし、DENによるイニシエーション後に AFB1 を投与し、その後 NIV を投与した群は、DENによるイニシエーション後に AFB1 のみを投与した群と比較して GST-P 陽性細胞巢の面積が増加し、NIV は DEN によるイニシエーション後の AFB1 の肝臓がん誘導を増強したことが示されている。なお、IARC では、NIV を含むフザリウム属菌が産生する毒素は、ヒトに対する発がん性について分類できない(グループ 3)と評価している。</p> <p>以上のことから、NIV はラットの肝臓において、DEN によるイニシエーション後の AFB1 の肝臓がん誘導を増強するものの、DEN によるイニシエーション後に NIV のみを投与した試験の結果からは発がんプロモーション作用は認められず、マウスの 2 年間の慢性毒性試験で発がん性が認められていないことから TDI を設定することが可能と考えられた。</p>

